

こ じま わん えん がん

「見島湾沿岸地区」

国営事業による基盤整備の概要

干拓

締切
堤防

樋門
管理

国営
事業

地域の
農業

農林水産省 中国四国農政局
岡山南土地改良建設事業所

明治時代以降の干拓

明治時代になり廃藩置県によって家禄をなくした（奉還した）旧士族たちの授産事業として干拓が行われ始め、それを契機に大阪の豪商藤田伝三郎による児島湾地域の大規模な干拓が始まりました。

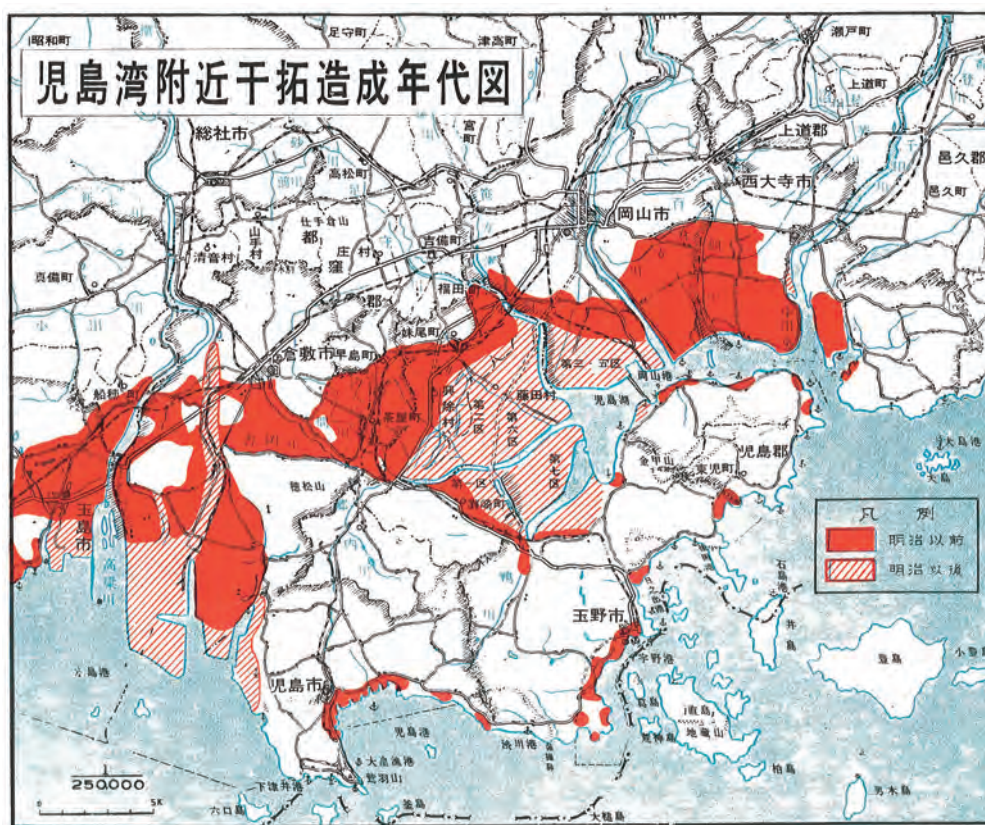
当初は、湾内約7,000haのうち約5,500haを8つの工区に分割し干拓を行う予定で進められ、途中、藤田農場の解体等による工事の中断があったものの、その後農林省（現在の農林水産省）が工事を引き継ぎ、昭和38年までに第四区と第八区を除く6つの工区が順次完了し、現在の姿となりました。



藤田伝三郎（1841-1912）

山口県萩市出身。高杉晋作の騎兵隊員でした。明治維新後、藤田組を組織し、数多くの事業を行いました。岡山市藤田という地名は、児島湾干拓で偉業をなした藤田伝三郎の「藤田」が地名となったものです。

（山陽東部土地改良建設事務所：児島湖 過去から未来へ 岡山海岸保全事業のあゆみ）



（中国四国農政局：児島湾干拓建設事業・児島湾沿岸農業水利事業 概要書）

干拓と基盤整備のあゆみ

	児島湾干拓と基盤整備	社会の出来事		
明治	民営大干拓の時代 明治維新後、民間の干拓気運は高まり、「藤田干拓」は現代児島湾干拓の基礎となる。			
	1880(明治13)年	生本伝九郎、児島湾全域干拓構想を高崎知事が内務卿に具申。	農商務省が設置される	
	1881(明治14)年	オランダ土木技師ムルドルが児島湾実地調査。		
	1882(明治15)年	生本伝九郎、大阪の豪商藤田伝三郎に干拓事業への参加を要請。		
	1889(明治22)年	藤田組の干拓起業(ムルドル技師指導の計画)認可。		
	1899(明治32)年	児島湾干拓第一・二区の工事着手。		
	1900(明治33)年	第一区潮止完了。		
	1904(明治37)年	第二区潮止完了。		
	1905(明治38)年	第一区の干拓地完成。		
	1912(明治45)年	第二区干拓地完成。 藤田村誕生。藤田村に藤田小学校開校、大曲、錦に分教場を設置。		
大正	1913(大正2)年	藤田開墾第三、五、六、七区の起工許可。山根式穀類乾燥機発明。		第一次世界大戦開戦
	1914(大正3)年	児島湾干拓第三、五、六区の工事着手。 第一区の耕地整理完了。		
	1918(大正7)年		第一次世界大戦終戦	
	1925(大正14)年		農商務省を農林省と商工省に分割	
昭和	1933(昭和8)年	児島湾干拓第三・五区の本工事着手。	第二次世界大戦開戦	
	1935(昭和10)年	第三・五区の潮止完了。		
	1937(昭和12)年	第三・五区西部地区の分譲開始。		
	1939(昭和14)年	第六区本工事着手。		
	1940(昭和15)年	第三・五区東部地区の区分竣工。		
	1941(昭和16)年	第六区の潮止完了。 県営小坂部川農業水利事業実施。(S16～S23)		
	1943(昭和18)年			真珠湾攻撃
	1944(昭和19)年	第七区の工事を藤田組より、農地開発営団が引き継ぐ。		農林省が廃止され、農商省を設置
	1945(昭和20)年			農商省が農林省に改称 第二次世界大戦終戦
	農林省干拓の時代			
戦後、藤田組の干拓事業は農林省が引き継ぎ、大規模干拓が進む。				
1946(昭和21)年	農地改革で第六区は国家買収、農林省が引き継ぐ。	南海大地震		
1947(昭和22)年	第七区工事を農地開発営団より農林省が引き継ぐ。 農林省 児島湾干拓建設事業(S22～S38)			
1948(昭和23)年	第七区の潮止完了。県営小坂部川用水改良事業、国営に移管。 農林省 小坂部川農業水利事業(S23～S30)			
1950(昭和25)年	農林省 児島湾沿岸農業水利事業(S25～S37)			
1951(昭和26)年	第七区への入植始まる。			
1953(昭和28)年			サンフランシスコ講和条約調印	
1954(昭和29)年	第六区干拓事業竣工。		テレビ放送開始	
児島湖淡水化始まる				
1956(昭和31)年	児島湖締切完了。		日本が国連に加盟 東京タワー完成、国立霞ヶ丘競技場完成 伊勢湾台風 カラーテレビ放送開始	
1958(昭和33)年				
1959(昭和34)年	締切堤防完工記念切手を発行。(S34年2月発行)			
1960(昭和35)年				
1961(昭和36)年	締切堤防開通式。締切堤防有料通行開始。(S36年10月)			
1962(昭和37)年				
1963(昭和38)年	第七区完工。現在の地勢となる。			
1964(昭和39)年		国立代々木競技場 東京オリンピック開催		
1970(昭和45)年		万国博覧会(大阪万博)開催		
1971(昭和46)年		沖縄返還協定調印		
1972(昭和47)年		山陽新幹線(新大阪-岡山間)開通		
1974(昭和49)年	締切堤防無料通行開始(S49年10月)	山陽新幹線(岡山-博多間)開通 農林省から農林水産省に改称		
1975(昭和50)年	県営海岸保全施設整備事業(S50～S55)			
1978(昭和53)年				
1980(昭和55)年	直轄海岸保全事業(岡山地区)(S55～H13)			
1986(昭和61)年	農林水産省 児島湾周辺農業水利事業(S61～H15)			
1988(昭和63)年			瀬戸中央自動車道、瀬戸大橋開通(S63年4月)	
平成	1989(平成元)年			昭和天皇崩御
	1990(平成2)年		広域農道(千両街道)開通	
	1992(平成4)年		農林水産省 児島湖沿岸農地防災事業(H4～H13)	
	1995(平成7)年			
	2006(平成18)年		阪神・淡路大震災(H7年1月) 西瀬戸自動車道(しまなみ海道)全線開通(H18年12月)	
	2011(平成23)年		東日本大震災(H23年3月)	
	2012(平成24)年		東京スカイツリー完成	
	2016(平成28)年		熊本地震(H28年4月)	
	2018(平成30)年		西日本豪雨	
	令和	児島湾締切堤防の耐震化対策始まる 東日本大震災を契機とした、大規模地震発生時の対策が求められる。		
2019(令和元)年		農林水産省 児島湾沿岸農地防災事業(R元～R12)	国立競技場完成	
2021(令和3)年			東京オリンピック開催(予定)	



児島湾開墾計画図 (明治時代)
(山陽東部土地改良建設事務所：岡山平野鳥瞰記)



干拓工事の様子
(田んぼになる海)

1 塩害との戦い



塩抜き鎌で溝を掘る様子

(岡山県立興陽高等学校：児島湾干拓および干拓農業発達史)

干拓地の田んぼはもともと海の底だったので、稲作の大敵となる塩分が含まれています。この塩分を流し出す溝を掘るために「塩抜き鎌」などを利用しました。



足踏水車

(岡山県立興陽高等学校：児島湾干拓および干拓農業発達史)

2 農業用水確保の取組

足踏水車を利用するなど用水を確保するために懸命な努力が続けられました。

3 生活用水確保の取組

屋根に降った雨水は「トイ」を通して「天水井戸」に溜めておきました。この貯水をろ過して飲用水に利用しました。生活用水の確保のために多大な労力が費やされました。



干拓地内の民家

(児島湾干拓事務所：児島湖干拓)



天水井戸

(藤田村編纂委員会：藤田村史)